今強く求められている――
反合理化闘争の意義

富重　池畑

大読者なぶ参加して
ま会に

七月十六日から十八日まで、宮崎県のえびの高原キャンプ場で、まなぶ友の会全国協議会主催による読者大会が行なわれ、全国各県代表千二百名が参加しました。

以下は、私の参加メモから抜き書きしたものです。

その一＝パンフ〝いのち〟二百号

各テント回り、販売活動から

「私達は、三池大災害の被爆者です。まなぶ集会に、このパンフをもって参加しました。このパンフは、一酸化炭素（CO）に悩まされ、頭痛やしびれに襲われながら、生活の実態を通し、三井鉱山を告発しつづけています。この資金で、今後も三井鉱山の責任を追及しつづけてゆく決意です。よろしくお願いします。」

「十月に私はまた三池にいきます。よろしくお願いします」

「このパンフにサインしてください」

「がんばってください」

その二＝基調報告から

「今、あたり前と考えていること、職場であたりまえにものがいえること、CO被災者が抹殺を許さず、造成職場や長期入院加療がつづけられているのは、三池労組の闘い、全国の闘うながまの連帯が、さらにはCO被災者の〝もとの身体にして返せ〟〝父ちゃんを返せ〟というCO闘争や法廷闘争などの、大きな成果を確認しなければならない」

その三＝集会参加の感想

――三井資本への責任追及の闘いは、一時の怒りや感情にとどまらず、今も労働者を殺しつづけている、三井資本の、〝命をうばってもむけつづける〟ことを当然とする社会の仕組をもっと学習し、労働者の命を大切にする、自分自身が変り、なかまを変え、社会変革をめざす闘いを、一歩一歩積みあげる以外にない。

――労働組合とは何か。何のために労働者が団結しているのか。自分自身の生きる目標を、どう考えているのか。一つひとつたしかめ、まず確認すること。

――賃上げが資本におさえこまれた七六春闘の中でも着実に、闘うなかまは前進している。もがく資本の攻撃の中で、〝何を問題にして闘うか〟、真剣に追及されている。三池の歩んできた反合理化闘争の意義が、今求められている。

ことば遊び

新港町作業所　田中　正人

百…百万分の一をも誠意を見せない三井

号…号鐘うちならし団結のもとに

記…記す労働者解放の一ページ

念…念力で殺人鬼三井を暴露し

特…特に犠牲者の仲間のため

集…集まる労働者の闘魂と

号…号火（のろし）をあげて闘おう

×

三川指導部十一分会（CO分会）新聞〝いのち〟二百号記念特集号のなかから。

また同誌には多くの短歌も見られますが、次はY・Y生筆名のものです。

我が道を一途に走る正しさにふり返り見て悔いることなし

アタシノカオ

スモン病患者の軌跡

鳥羽道子

コツコツコツ　コツコツコツ
シンヤニヒビクテンジノオト
ノロノロトテンジヲサグル
イツシカトメドモナクオチルナ
ミダ

アー　ナゼコンナニクルシマナ
ケレバナラナイノ
ナゼ　コンナニマデシナケレバ
ナラナイノ

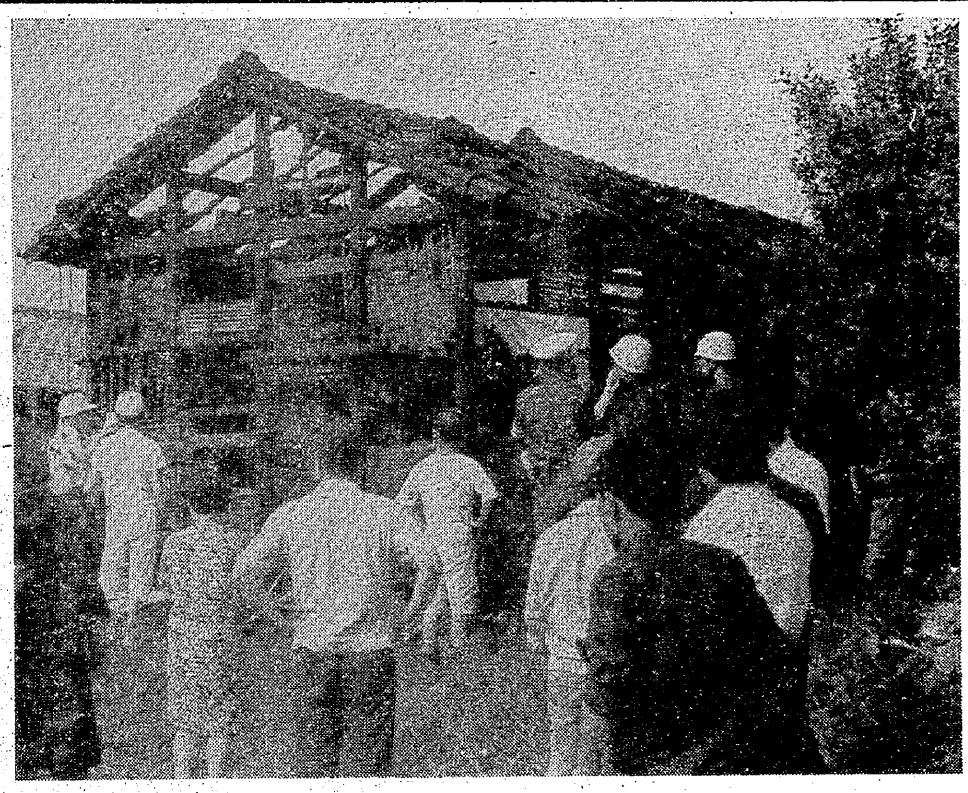
ソーット　ジブンノカオヲナデ
テミル
アレカラ一〇ネンタッタノニ
アタシノカオノキオクハ　アノ
トキノママ
ジブンノカオサエミエナイツラ
サ
ダレカオシエテ　アタシノカオ
ヲ

シロツエヲタタイテサケブ
マッスグダ　マッスグダト　ド
コカデコエガスル
ヤミクモニムカッテ　ワタシハ
ススム
カスカナヒカリヲモトメテ

×

福岡スモン患者と家族の会が発行したパンフレット〝スモン〟に掲載されていたものです。

ドコエイケバイイノ　アタシワ



受川さんの家は全焼した。家財道具一切残らなかつた。以前の住いは朽ち果ててしまい、こんどは火災。管理責任の会社は、何をしているのか。

胸に湧く新たな怒り

火事見舞いに受川さんをたずねて

石原マサ子

七月二十四日、小川団長をはじめ私たち五名が原告団を代表して熊大病院に入院中の受川さんのもとに、火事見舞いにおとずれました。（本紙前号参照のこと）

CO患者の受川孝さんは、植物人間と診断されていられるほどの重症患者とはいえ、自分の家が丸焼けしたことに対して何の反応もなく、私達の胸に新たな怒りがこみあげてきました。

受川さん親子は、昭和三十八年十一月九日の三池大災害以来病室が住家とかわり、緑ケ丘桂町の自分の家はしめ切ったままでした。

もともとの家は、会社の管理の不十分さから、雨もりのため家ごとくさってしまい、家材道具の一部までくさったり、こわれたりしましたので、桂地域分会としては受川さんの住居を、闘争本部の隣りにでも移したらたまには雨戸を開けて、掃除もできるからと、会社にかけ合い、みんなで移した住居でした。

七月七日午後六時過ぎ、突然の出火で全焼、家財道具も何一つ運び出すひまもありませんでした。

わが子につきそっておられる母さんは、「頼るたったひとりの息子は廃人にされ、私たち親子を一生苦しめつづけるうえに、会社の管理の不十分さから、その一つひとつに思い出があったのに、こんどは道具まで何もかも灰にしてしまいました」、と嘆いておられました。会社は受川さん親子に対して、どのように責任を取るのでしょうか。

それどころか、いまだに受川さんの住居はきまっていません。お母さんは「やっぱり、何かにつけ帰る家がきまらないと心配です」といっておられました。一日も早く、受川さんのお母さんのご心配を一つでもとりのぞいてやることが私達のつとめでもある、と思って帰りました。

お母さんから、「新聞のみいけの紙面を貸していただいて、大変お世話かけますがよろしくと伝えて下さい」、とのことでしたのでひとこと書き添えます。

三池をおたずねして開けました僕の歩く道

林　一郎さんからお便り

先日は、心のこもったおもてなしを本当にありがとうございました。

せっかく多勢の方々に集っていただいたのに、僕の問題意識が低いために活発な討論を展開するに至らず、皆さんには物足りなかったことでしょう。申し訳けなく思っています。

本を読んで、頭で考えているだけではだめだと思い、交流会に参加してみたのですが、三池に行くまでは何を話したらいいのか、何をすればよいのか、見当もつかず少々不安でした。しかし皆さんが僕のような者でもまじめに相手にして下さって、いろいろと貴重なお話をきかせて下さったので僕も勇気づけられ、これからは積極的に現地交流を、一人ででもでかけていってしよう、という意欲が湧いてきました。

僕にとっては初めての経験でしたが、実際にいって、じかに接するということは、たしかに大きな意義があると思います。

東大、京大の出身者の多くが大企業、官庁に入り、管理職について、資本家の家畜のような存在となり、〝加害者〟となっている以上、僕も皆さんに信用されなくて当然、冷たくあしらわれて当然だと思っていました。

しかし実際には、だれ一人として、僕に非難めいたことをおっしゃらず、皆さんが僕をあたたかく迎えて下さいました。

僕がどういう人間であるか、皆さんの仲間に足る存在であるかどうか、ということは、これからの僕の行動で示す以外にない以上、いまは何もいうべきではないかも知れません。

ただ、他人の犠牲のうえに成りたつ幸福、繁栄などあり得ないし他人を踏みつけにして、自分だけがよい思いをしている人びとを許すことはできません。われわれが本当に自由に、幸福に暮らしていくにはどうしても、彼らと闘わなければなりません。

そのために、一人でも多くの人を仲間に入れ、連帯を深めていく必要があるのだと思います。いつの間にか誤った道に踏み入ってしまわないためにも、よき仲間と心を通じあうことこそ、最も勇気づけられるのだと思います。

そういう点で、皆さんのようにたくましく闘っておられる人びとから、謙虚に学びとっていきたいと思います。たとえそれが私の力量を越えているとしても、生涯その意志をもちつづけて、地道にがんばりぬきたいと思います。

それでは皆さんお元気で。

×

林さんは大学生で、先ほど北摂CO患者守る会代表を三池にお迎えしたとき、二十六人の方のなかのお一人でした。お住居は、「京都市左京区浄土寺西田町一〇〇―二〇、市村様方」にお住いです。

お便りは、原万田地域分会の塚本清さん（妻栄子さん）のもとに寄せられたお礼状ですが、返って大切なことを教えられました。これからはいっそう強く手をとり合って歩いていきましょう。

なお塚本さんのもとへ、高槻市明田町二の二二にお住まいの筋師淑子さんからも、お便りが寄せられておりますが、ほんとうにありがとうございました。

――編集部

公害持ち込みを阻止

全自運神田支部は、会社が発表した「旧本社跡地のターミナル化」計画を、都心部に車公害を持ち込むことになる―と反対し、計画の実施をやめさせました。

また同支部は、地域公害防止のための運動のひとつとして、全施設の「録化運動」をおこし、これを実現させるなどのとりくみもすすめています。（トラック運輸労働）